日建連表彰2022
第63回BCS賞

長野県立美術館

選定理由

【選考委員】野城智也・鳴海雅人・尾崎　勝

長野県立美術館は、善光寺東側の城山公園の一角の大きな高低差のある敷地にある。航空写真は、この建築が、善光寺の境内から発する軸線、および東山魁夷館（谷口吉生設計）が生み出す軸線との交差を活かしつつ、伸びやかに展開し、近隣環境のなかに、しっくりとはまりこんでいることを示している。敷地の高低差が生み出す三層のレベルの交差・融合と、透明感ある開口部を巧みに配置することで、それぞれの場所が独自の居心地を提供する、ゆかしき空間群を現出している。

こうした空間群のなかで、印象的な空間の一つが三階屋上テラスからの入館アプローチである。来館者の視線の向こうには、黒々とした屋根で構成される善光寺の境内空間が広がり、更に、その背後には緑あふれる山並みがそびえている。人々は、この建築の立地環境を強く意識する視覚体験を経て入館していくことになる。

設計者は選定されたあとに、ワークショップを開催することを提案し、実際、何回も様々な関係者とのワークショップが繰り返し開催されたという。「何をつくるのか」についての納得の形成にかけた、建築主、設計者をはじめとする関係者の忍耐と挑戦は、ゆかしき空間群の実現の原動力となっているように思われる。

例えば、この美術館は、入館料を払わなくても市民がアクセスできる領域（public realm）が大きい。その結果、城山公園を訪れた人々誰しもが、透明な開口部を介して美術館のなかの活動を窺い知ることができる。

このワークショップを起点としたデザインプロセスは、多くの関係者を惹きつけ、建築主、設計者、施工者のみならず、施設運営者・管理者を含む多くの関係者、市民との共創を生んでいるといえよう。城山公園の諸施設の設計施工は、公共工事の性格上分離発注されているものの、本美術館の設計者が公園全体の設計を実質的に監修する、という流れが自然とできていったということもうなずける。結果として、どこまでが美術館の敷地なのか境目がわからない一体的な公園全体の環境が整備されている。

そのゆかしき空間群を支えるのが、隙のないディテールである。たとえば、ガラスとアルミパネルで構成された端正な外装は、実はペアガラスを用いているにもかかわらず、その厚みを感じさせないディテール処理がなされている。このように各ディテールの設計に並々ならぬ精力が注がれているものの、部分が決して主張することなく、全体として心地よいゆかしき空間を実現している。

建築主、設計者、施工者をはじめ関係者が払った以上のような努力が、周囲の市民の活動がそのまま流れ込んできているかのような賑わいのある美術館を実現している。まさに、市民に愛され、大いに機能していることを象徴している光景といえよう。

1. 10mの高低差内に本館の主要部を収めている
2. 吹抜けのある展示室1。2階からも鑑賞可能
3. 1階応接室のテラスより。のぼり庭を見る

長野県立美術館　概要

- 所在地　長野県長野市箱清水1-4-4
- 建築主　長野県
- 設計者　㈱プランツアソシエイツ
- 施工者　清水建設㈱、㈱新津組
- 竣工日　2020年12月18日

- 敷地面積　16,363㎡
- 建築面積　5,857㎡
- 延床面積　13,256㎡

- 階数　地上3階、地下1階
- 構造　鉄筋コンクリート+プレストレストコンクリート造、一部鉄骨造

詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／ GREEN SPRINGS ／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／ Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館　早稲田アリーナ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。